

## 中露の接近と日本外交（天然ガスと SU-35 の取引に関し）

漢和防務評論 20141003 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ウクライナ問題で欧米に対抗するため、ロシアは中国に接近していますが、漢和防務評論誌の平可夫氏は、日本はウクライナ問題で直接の利害関係がないので、日露間の問題を解決するチャンスであると述べています。この主張は 20140805 の記事でも紹介しました。

平可夫氏の意見は、日本の外交の微妙な部分を突いているので、同氏の記事を読むと、日本外交の本音と建前が分かかってしまいます。はっきり言えば、日本はロシアが信用できないということです。

平可夫

プーチンが訪中し、3000 億ドルの天然ガス供給に合意したことは、プーチンの訪中間に、SU-35 問題でも天然ガス方式の採用、すなわち“中国人に多くのロシア人の血を吸わせた”（ロシアが価格で譲歩した）可能性が極めて高い。プーチンは、メディアに対して：中国の天然ガス交渉相手は、技術に精通し、我々の多くの血を吸った、と述べた。10 年以上にわたる中露の天然ガス交渉と、SU-35 導入に関する交渉は極めてよく似ている。双方は、価格面で行き詰まった。交渉は、停滞と再開の堂々巡りであった。クリミア危機後、プーチンは、天然ガス、石油、輸出武器の価格問題で中国に譲歩してまで明らかに交渉をまとめようとしていた。クレムリンは、政治的に緊急に中国を必要としている。この点は、本誌 KDR はすでに予想していた。SU-35 の価格問題では、必ず両国首脳レベルで協定し、引き続き技術上の交渉に入るであろう、と。この 6 月、解放軍装備部部長 ZHANG YOUXIA は、巨大な代表団を率いてモスクワを訪問した。このことは、SU-35 戦闘機、S-400 地对空ミサイル、LADA 型潜水艦等々の事業が細部の技術的交渉に入ったことを示している。一旦クレムリンの原則的な指示を受けた後は、技術的な交渉は速やかに進行する。なぜなら中国はすでに SU-35 を詳しく知っているからである。

クリミア情勢の変化は、中露関係を大きく変えた。中国は最大の勝利者であり、ロシアも新たな領土を得た。ロシアは制裁を受けているが、当然勝利者である。最も KY（空気が読めない）で、敗者になったのは日本である。2 の核心利益、すなわち①北方領土②中露の接近阻止すなわちロシアの対中先進武器輸出阻止、これらの全てが破砕した。外交的自殺とも言おうか？

クリミア問題は、日本にどんな利害関係があるのだろうか？

5月26日、プーチンはモスクワの記者会見で質問した。“我々はウクライナ問題に対する日本の姿勢に驚いている。理解できない。東京は何の関係があるのか？”と。多くのロシア新聞界の友人も疑問を述べた。

この問題については、プーチンの発言の前に、本誌はすでに見解を述べている。

(KDR、6月号中文版)(注：コロネ投稿記事 20140805)

“貴方は何をやっているの？”なぜ安倍首相は、欧州に馳せ参じるのか？“単独でロシアを制裁する”とは如何なる意味か？さっぱり訳が分からない背後には、日本の伝統的外交思想がある。この思想は21世紀の日本を取り巻く環境には適合できない。

“脱亜入欧”は明治維新時代に提議された外交戦略である。日本はすでにスポーツ選手を欧州のスポーツ競技会に参加させている。この思想は一部の日本の対外政策に影響を与えている。実際の脱亜入欧とは何か？①NATOに加入する、②EUに加盟する、ことである。日本は出来るのか？不可能だ。欧州も許可しない。NATO憲章規定を見るがよい。

不可能であるのに、なぜそうするのか？ロシアは、隣国なので毎日のようにTU-95爆撃機を日本領空付近に飛行させ、中国にはSU-35を輸出しようとしている。これは、日本の“脱亜入欧”政策に符合するのか？

外務省も分かっていないのだろうか？それは違う。本誌は、外務省には優れた人材がいると認識している。安倍が外交を知らないのは、日本の外交政策策定過程が現代的科学的でないからだ。この点は、中国の江澤民時代やソ連のアンドロポフ時代の外交よりも劣る。この2者は、外交のシンクタンク、専門家を高度に重視していた。アンドロポフの時代には、毎週木曜日の夜、米国及びカナダ研究所、世界経済及び国際関係研究所から専門家を招き、対外政策について勉強していた。KGB出身のアンドロポフですらこのように謙虚に学習していた。

江澤民の時代、中国は科学シンクタンク、特に上海の外交学者を特に重視した。しかし西側先進国の中で、日本は国家安全保障会議を最近やっと成立させたばかりである。(G-7国家の中では最後)

日本の外交政策の策定は、封建的性質が強い。その理由は江戸時代の藩政にある。自民党内部の幾つかの派閥の領袖がひそかに相談して決めている。外務大臣、防衛大臣は政治家であり、職業外交官ではなく、軍出身でもない。職業外交官は、日本の外交政策策定にどの程度関与しているのか？このほか、西欧、米国、カナダ社会の外交学者は、高度に独立した人格を保有し、政治家、領袖に対して率直に意見を述べるが、日本人は東洋人としての性格からこのようではなく、日本の中高級官僚は、首脳の見解に如何に迎合するかに頭を使っている。ロシア社会もまた、特にプーチン時代になってからこのような傾向がある。

しかし、たとえロシアがそうであっても、日本社会に比べれば未だましである。  
これらの遅れた政策策定、思考方式は、日本の外交に大きく影響する。

以上